



記 入 日 2013 年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	糸魚川市立根知小学校		
連絡先	宮川高広 025-558-2100		
プランタイトル	根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育 2012		
プランの対象者※1	小学校（低・高学年） 保護者・PTA 地域住民	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

2011年度の取組の成果と課題を基に、2012年度は、校内、校外における人と人との関わりを深めることを意識しながら、ジオパーク（G）と地域・住民（C）、防災教育（B）の3つを関連付けた防災教育カリキュラムの開発を校内研修課題として取り組み、市内の学校への普及および啓発を図る。そして、地域の自主防災組織と連携した防災訓練を行い、地域防災の構築を図る。また、防災教育を力強く推進するために、教職員には、各種災害に立ち向かう防災戦隊チャレンジャーとしての使命が…児童は、GCB48のメンバーを目指すことに…

【プランの概要】

1. G・C・Bと関連付けた防災教育カリキュラムの作成
2. 校内研修に位置付けて行う一人一研究・実践（一つ以上）の取組
 - ①防災戦隊チャレンジャー ②非常サイレンの日 ③非常用発電機の研修
 - ④防災を取り入れた運動会種目 ⑤指導案検討・公開授業研修
3. GCB48メンバーの育成に向けた防災MISSIONの取組

防災教育カリキュラムと関連付けた防災MISSION計画を作成し、定期的に宿題として児童にMISSIONを提示する。MISSIONをクリアすると、チャレンジャーカードを1枚取得することができる。カードをたくさん集めると対戦型の防災ゲームが行える。
4. 保護者・地域住民参加の防災研修機会の設営
 - ①地域防災懇談会 ②サプライズ避難訓練 ③防災・宿泊体験学習（DIG・避難所研修）
5. チャレンジャー通信（Making of 防災教育チャレンジプラン：防災研修資料）の発行

【期待される効果・ここがおすすめ！】

児童だけでなく、保護者や地域の参観者をも巻き込んだサプライズ避難訓練の実施により、災害発生時の行動の仕方について問い直すことで災害対応能力の育成が期待される。教科等の学習に関連付けた防災教育カリキュラムと防災MISSIONにより、防災にかかわる知識の深まりとその活用が期待される。

防災MISSIONを宿題として提示し、家族で相談しながらMISSIONに取り組むことで、防災について、児童だけでなく保護者への啓発を行い、防災文化を早期に作り上げることが期待される。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	・防災教育カリキュラムもとを提案	・防災 MISSION 計画の作成	※P はプランを示す P1 : 4/25 チャレンジャー通信①
5 月	・職員研修内容についての検討 ・P4 の立案 ・P3, 7 の計画案の提示	・P2 の出題に向けて、担当職員が防災危機管理者として知識を習得 ・P4 の連絡、調整 ・各学年総合的な学習の時間の計画を具体化	P2 : 5/ 2 防災 MISSION① P2 : 5/11 防災 MISSION② P3 : 5/11 非常サイレンの日① P4 : 5/19 第 1 回地域防災懇談会 P5 : 5/23 非常用発電機の研修 P1 : 5/25 チャレンジャー通信②
6 月	・P10・11 の基本計画案の検討		P6 : 6/ 2 運動会・学年種目 P7 : 6/ 2 運動会・サプライズ避難訓練 P2 : 6/ 8 防災 MISSION③ P3 : 6/11 非常サイレンの日② P2 : 6/22 防災 MISSION④ P1 : 6/25 チャレンジャー通信③
7 月	・P10・11 の計画案の検討 ・P8 に向けた指導案の検討	・DIG 及び避難所運営 (P11) に向けて、担当職員が防災士養成研修に参加	P2 : 7/ 6 防災 MISSION⑤ P3 : 7/10 非常サイレンの日③ P2 : 7/20 防災 MISSION⑥ P8 : 7/23 授業協議会① P1 : 7/24 チャレンジャー通信④
8 月	・P10・11 の計画細案に基づく打合せ	・P11 に向けた準備、外部機関との連絡、調整	P9 : 8/ 3 防災教育カリキュラム試案版作成 P2 : 8/31 防災 MISSION⑦
9 月	・P12 に向けた指導案の検討		P10 : 9/6 授業参観・サプライズ避難訓練 P11 : 9/6・7 第 2 回地域防災懇談会 防災・宿泊体験学習 P3 : 9/10 非常サイレンの日④ P2 : 9/14 防災 MISSION⑧ P1 : 9/25 チャレンジャー通信⑤ P12 : 9/26 授業協議会②
10 月	・中間報告会 ・P14 に向けた指導案の検討①		P2 : 10/ 5 防災 MISSION⑨ P3 : 10/10 非常サイレンの日⑤ P2 : 10/19 防災 MISSION⑩ P13 : 10/22 流れる水のはたらき
11 月	・P14 に向けた指導案の検討②	・P2, 3, 6, 8, 11, 12 についての児童アンケートの実施	P2 : 11/ 2 防災 MISSION⑪ P3 : 11/ 9 非常サイレンの日⑥ P2 : 11/16 防災 MISSION⑫ P1 : 11/22 チャレンジャー通信⑥ P14 : 11/27 授業協議会③
12 月		・保護者アンケートの実施	P15 : 12/ 2 第 3 回地域防災懇談会 P3 : 12/ 4 非常サイレンの日⑦ P1 : 12/21 チャレンジャー通信⑦
1 月	・次年度の方向性の検討	・報告書の作成 ・年間行事計画案の作成	P3 : 1/10 非常サイレンの日⑧ P2 : 1/11 防災 MISSION⑬
2 月	・最終報告会		P3 : 2/12 非常サイレンの日⑨
3 月			P3 : 3/11 非常サイレンの日⑩



3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	チャレンジャー通信 (Making of 防災教育チャレンジプラン：防災研修資料) の発行
実施月日 (曜日)	4月25日 (水)、5月25日 (金)、6月25日 (月)、7月24日 (火)、9月25日 (火)、11月22日 (木)、12月21日 (金)
実施場所	根知小学校 チャレンジャー事務局 (教務室)
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック (宮川高広) 所属・役職等：チャレンジャー事務局 (教頭)
所要時間または「コマ数×単位時間」	各号により異なる
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 その他
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	当校の取組の紹介を通して、防災に関する関心を高める
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	○実践内容を月ごとにA4判裏表1枚まとめる ・児童を通して保護者へ配布 ・公民館を通して地域へ回覧 ・市教育委員会を通して市内の学校へ配布 ○ホームページにアップ ○市内等の防災教育研修資料として冊子「Making of 防災教育チャレンジプラン」を編集し発行・配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン 印刷機 など
参加人数	担当者
経費の総額・内訳概要	114,000円 研修用資料冊子印刷製本費用
成果と課題	【成果】 当校の取組について関心を示す学校関係者や理解している保護者が多くなった。 【課題】 防災通信やHPだけでは情報発信が一方通行であった。今後、出来上がった研修資料を基に、市内の学校関係者に向けた報告会を開催する必要がある。
成果物	Making of 防災教育チャレンジプラン (防災研修資料)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	防災 MISSION
実施月日（曜日）	5月2日（水）、5月11日（金）、6月8日（金）、6月22日（金） 7月6日（金）、7月20日（金）、8月31日（金）、9月14日（金） 10月5日（金）、10月19日（金）、11月2日（金） 11月16日（金）、1月11日（金）
実施場所	根知小学校 出題：各教室 提出：チャレンジャー事務局（教務室）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック（宮川高広） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（教頭）
所要時間または「コマ数×単位時間」	所要時間は異なる（出題から提出までは4～11日間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	10 家庭学習
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	出題された防災 MISSION のクリアを目指し、児童及び保護者の防災意識を高め、知識を深める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①「防災カリキュラムの概要」に基づき、6年間の「防災 MISSION 計画」を作成（各学年10～12のMISSION） ②防災 MISSION 計画に基づき、児童にはやや難しい難易度のMISSIONを作成 ・月約2回のペースで週末にMISSIONを専用封筒に入れて出題 ・児童は、MISSIONをできるだけ家族と相談しながら取り組む ・翌週、翌々週の火曜日までにチャレンジャーブラックに提出 ③MISSIONをクリアした児童には、チャレンジャーカードを1枚進呈 ・カードを12枚ゲットしたら、GCB48のみならい生として、オリジナルカードケースを進呈 ・カードを24枚ゲットしたら、GCB48の準メンバーとしての認定証を進呈 ・カードを48枚ゲットしたら、GCB48のレギュラーメンバーとしての認定証とバッジを進呈 ・各チャレンジャーのカード番号1～4を集めると、関連するDMカードを進呈 ④今年度分のMISSIONをすべてクリアすると専用オリジナルファイル（MISSIONブック）を進呈 ※チャレンジャーカードとDMカードをたくさん集めると対戦型の防災カードゲームとして活用が可能となり、友達や家族で楽しめる ※6年間かけて取り組むMISSIONのため、今年度は、中学年は2倍速、高学年は3～4倍速でMISSIONに挑戦



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	日本の自然災害 東日本大震災襲来 (日本専門図書出版) 防災士教本 名刺カード、カード保存用ケース、上質紙、ラミネートフィルム、 ファスナー、封筒 など
参加人数	全校児童 (31名) とその家族
経費の総額・内訳概要	39,057円 日本の自然災害 東日本大震災襲来 15,000円 カード用名刺カード 10,300円 カード保存用ケース 1,900円 カードケース用上質紙 300円 MISSION 用A4判コピー用紙 2,677円 ラミネートフィルム 1,980円 フルフェイスヘルメット 6,900円
成果と課題	【成果】 ・“防災 MISSION (クイズ) は、「もしも災害が起きたとき」に役に立つ知識だと思う。”の問いに対し、とてもそう思う87%・どちらかというと思う13%であり、児童の防災意識を高め、知識を深める成果があったと思われる。 ・精力的に MISSION をクリアしようとする児童の姿があった。 ・“防災 MISSION は、家族と一緒に取り組んでいますか。”の問いに対して、ほとんどの問題を家族と一緒に考えた30%・どちらかというと一緒に考えた57%であり、予想以上に家族(保護者)と取り組む姿があった。保護者への防災知識の普及及び意識の高揚の一助になったと思われる。学校評価保護者アンケートでは、「問題に正解するともらえるカードは、子どもの励みになっています。カードがそろそろゲームができるとのこと、親も楽しみにしています。」という声が寄せられた。 【課題】 ・この取組の継続性を考え、6年間の「防災 MISSION 計画」を作成した。1年目の今年度は、卒業までの年数が少ない中・高学年は2倍速、3倍速のペースで行ったため、児童への負担が大きくなり提出が滞ることもあった。
成果物	防災 MISSION 計画 (防災研修資料) チャレンジカード、DMカード、専用オリジナルカードケース MISSION ブック チャレンジャーブラックコスチューム (写真)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

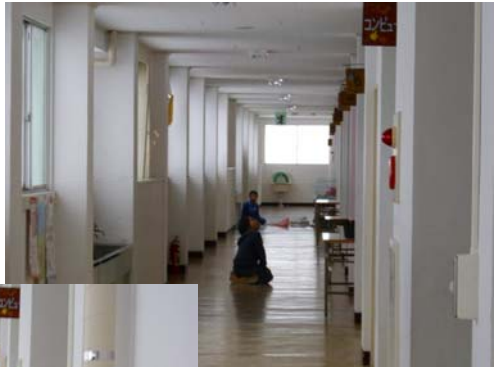
※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	非常サイレンの日
実施月日（曜日）	5月11日（金）、6月11日（月）、7月10日（火） 9月10日（月）、10月10日（水）、11月9日（金） 12月10日（月）、1月10日（木）、2月12日（火） 3月11日（月）
実施場所	根知小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーイエロー（松木由美子） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（保健・安全主任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	10×5分程度
プログラムの カテゴリ、形式※4	8 その他学校内の時間
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	非常サイレンを聞いた際に、活動を止め、その後の非常放送内容をはっきりと聞きとることができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	○これまでの安全点検日（毎月10日）を非常サイレンの日に指定 ・昼休みの時間帯に実施 ・職員は分担して全校児童の様子を観察し、担当者に報告 ・活動の様子を総括し、児童への指導事項を確認 ※さまざまなサイレン及び非常放送機器を利用し、「サイレンが鳴ったら活動を止め聞く」から「サイレンが鳴ったら活動を止め、非常放送の指示を聞き取り、行動に移す」へと難度を高めながら実施 ※難度が高まった1月10日の実践例 ・昼休み中（13：15）にチャイム音 ・「今日は非常サイレンの日です。指示があるまでその場で待ちなさい。」 ・「全校のみなさんに連絡します。ここから先は一人一人の判断で行動してもらいます。ミッションを出しますのでよく考えて行動しなさい。」 ・「もし教務室が火事になったら、どこを通過してどこへ逃げますか？避難しようと考えた出口のところまで移動しなさい！」 ・「行動開始！」 ・全校児童が移動したのを確認 ・帰りの会で児童の避難経路を確認し指導 「おはしもができたか」「教務室前を通らず最も近い出入り口から外へ逃げたか」「ハンカチなどで鼻や口を覆い、低い姿勢で行動できたか」
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	非常用放送機器（火災報知機連動） 通常の放送機器 ハンドマイク
参加人数	全校児童（31名） 調理員を除く居合わせた教職員（5～10名）



経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・“毎月行われる非常サイレンは、「もしも災害が起きたとき」に役に立つ取組だと思う。” の問いに対し、とてもそう思う 83%・どちらかというと思う 17%であり、真剣に取り組む児童の姿が見られた。 ・さまざまな放送機器を試したことで、停電時に使える機器、屋外への放送ができない危機などの実態を確認することができた。 【課題】 特記事項なし   
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	第 1 回地域防災懇談会
実施月日（曜日）	5 月 1 9 日（土）
実施場所	根知小学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック（宮川高広） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（教頭）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1 × 5 0 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域防災懇談会を契機に、地域内の自主防災組織立ち上げ準備委員会が活動を始める。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	○「自分たちの地域は 自分たちで守る」をテーマとした講演会を開催 ・すでに自主防災組織を立ち上げ活発に活動している地域の代表者 2 名から、組織や活動内容についての紹介 ・各自主防災組織への質疑 ○根知小学校の防災教育チャレンジプランにおける取組について協議
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	糸魚川市小滝地区自治振興協議会長 丸山明三様 糸魚川市上刈地区防災会会長 野本和宏様（当校管理員・防災士）
参加人数	根知振興協議会メンバー（各区長、公民館長、スキー場職員等） 学校職員 計約 2 0 名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼・交通費 5, 5 0 0 円
成果と課題	【成果】 ・地域防災懇談会の案内（5 月 2 日）後、自主防災組織立ち上げ準備委員会が 5 月 2 7 日に計画された。その後、小滝地区の自主防災組織をモデルとして、規約や組織が作られるようになった。 【課題】 ・今後、立ち上がった自主防災組織と学校との具体的な連携方法について協議する場が必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	非常用発電機の研修
実施月日（曜日）	5月23日（水）
実施場所	根知小学校 プールサイド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーグリーン（小池 聡） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（研究主任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1×15分
プログラムの カテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	7 技術を身につける
達成目標	全教職員が非常用発電機の始動と停止が行える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①（電源が取れない）プールの清掃のための電源を確保するために 非常用発電機を準備 ②防災士である管理員を講師とし、始動から停止までを全員が一人 でできるように実技講習 ・実習 ・使用容量等を確認
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・避難所用に配備された非常用発電機
参加人数	教職員（8名）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・参加した教職員全員が始動から停止をすることができるようになった。 ・どれくらいの電気の使用が可能か把握することができた。 【課題】 ・特記事項なし
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： 6 】 ※3

タイトル	「助けて！助けて！」運動会学年種目
実施月日（曜日）	6月2日（土）
実施場所	根知小学校 グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーグリーン（小池 聡） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（研究主任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1×15分
プログラムの カテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	災害発生時の基本行動を行うことができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	○運動会の学年種目として実施 ・ピストル音が地震発生の場合 ・すばやく防災頭巾を頭にかぶる ・火災が発生したと想定し、低い姿勢になってハードルをくぐる ・グラウンド中央に置かれたカードを目指す ※赤いカードは「助けて」カードで裏に書かれた人からおんぶして もらう、青いカードは「助けて」カードで裏に書かれた人をおん ぶする ・カードを1枚選択し、書かれた人を探し、おんぶされて（して） ゴールまで進む
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災頭巾 ピストル・紙雷管 ハードル 赤青のカード 運動会の参加者
参加人数	中学年児童（10名） カードに書かれた人（10名）
経費の総額・内訳概要	別途会計
成果と課題	【成果】 ・緊張感をもって、防災頭巾をすばやくかぶることや火災発生時は 姿勢を低くして逃げることを体験的に行うことができた。 【課題】 ・防災頭巾のあごひもをうまく縛ることができず、頭巾が安定しな い児童の姿が見られた（課題が見えたことは成果でもある）
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	「アヒルちゃんを救出せよ！」運動会サプライズ避難訓練
実施月日（曜日）	6月2日（土）
実施場所	根知小学校 グラウンド
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック（宮川高広） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（教頭）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1×20分
プログラムの カテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	・緊急地震速報を想定した屋外での避難行動が行える ・昨年のバケツリレー経験を訓練の場で生かすことができる
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	※学校職員以外の児童、保護者、来賓、地域住民への事前通知をせずに実施 ①担当者【ホイッスル音】 ②担当者「避難訓練！緊急地震速報が出されました！能登半島沖で大きな地震発生、まもなく大きく揺れる可能性があります。全員、建物からはなれて、グラウンド中央に移動し、姿勢を低くしてください。」 ③児童・参観者（保護者・来賓・地域住民）・教職員は避難行動を開始 ④担当者「…只今大きく揺れています。…」 ⑤担当者【非常サイレン鳴動】 ⑥担当者「只今の地震により、教務室から出火！これより紅白玉入れにかえて、消火訓練を紅白対抗戦で行います。教務室前にあるタフブネ（700）の中に、炎にみたてたカラーボール5つと助け出すアヒルちゃんが1ぴき入っています。ポリバケツ（1200）には、水が溜めてあります。バケツ4つを用いて水を運び、火を消すようにタフブネにかけます。早く中のアヒルちゃんを外に出すか、ボール5つ全部を外に出すかしたチームの勝ちです。もし両チームとも途中でポリバケツの水が全部なくなったら、出したボールの数が多き方が勝ちとなります。炎で危険ですので、白い制限ライン（距離2m）よりも前にでることはできません。参加者は、児童と地域のお年寄りですが、応援リーダー以外は声を出さず、すべてリーダーの指示で動きます。消火開始！の合図で、リーダーは、まず地域のお年寄りに声をかけ10人以上の協力者を確保してから消火活動をはじめましょう。開始前に1分間の作戦タイムを与えます・・・では消火開始！」 ④児童は地域のお年寄りを確保し、昨年の経験を活かして1列に並びバケツを送る役割と空いたバケツを走ってもとに戻す役割を分担し活動



準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	運動会参観者（20名） タフブネ（700）×1×2 バケツ×4×2 ポリバケツ（1200）×1×2 おもちゃのアヒル×1×2 カラーボール×5×2
参加人数	全校児童（31名） 運動会参観者（約120名）
経費の総額・内訳概要	別途会計
成果と課題	【成果】 ・ 事前の予告通知をしなかったにもかかわらず、乳幼児を世話をしていた保護者をのぞいて、全員がグラウンド中央に避難し、姿勢を低くすることができた。 ・ 昨年の体験を思い出し、リーダー（児童）の指示で水の入ったポリバケツから火元まで一列に並びバケツをリレーすることができた。また、空になったバケツを運搬する役割を設けて効率よくバケツをリレーすることができた。 ・ “運動会（6月2日）での避難訓練・バケツリレーでは、「もしも災害が起きたとき」に役に立つ体験ができたと思う。”の問いに対し、とてもそう思う96%・どちらかというと思う4%であり、良い評価を得ることができた。 【課題】 ・ 昨年は、ポリバケツからポリバケツへ水を早く移すことを目的として行った。今回は、離れたところから火を消すことを想定し、バケツの水を投げかけるようにした。しかし、水を投げかける経験が乏しく、児童は遠くに水を飛ばすことができなかった。プール清掃などの場面で積極的に練習する必要があると感じた。（課題が見えたことは成果でもある） 
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	さがそう！守ろう！根知の宝～ジオパークの自然探検隊 授業協議会①（3・4年生総合的な学習の時間）
実施月日（曜日）	7月23日（月）授業協議会 10月28日（日）成果発表
実施場所	根知小学校 他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーグリーン（小池 聡） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（3・4年生担任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	70×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	・児童アンケートにおける肯定的な評価（とてもそう思う・どちらかというと思う）が100%になる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①前年度2月に単元計画案を検討 ②4月、校内研究の全体計画と「防災教育カリキュラムの概要もと」に基づき、単元計画案を修正 ③総合的な学習の時間における児童の探究学習 ・ジオパークについての調査 ・青海自然博物館、フォッサマグナミュージアム、フォッサマグナパークの見学 ・塩の道についての調査 ・根知川、水神様についての調査 ④7月9日、授業公開に向けた指導案検討 ⑤7月23日、授業公開と授業協議会 ⑥10月4日、根知川についての学習会の開催 ※地域住民への案内、学習会の運営、参加者の接待 ・根知川の特徴について ・土砂災害について ・砂防施設について ⑦根知の宝を発信しよう ・探求したことを劇にして発表するための準備 ・10月28日、文化祭で発表 ・新聞・パンフレットの作成、インターネットでの配信
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	地域のお年寄り 国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 渡瀬智保様
参加人数	総合的な学習の時間 3・4年生児童（10名） 川についての学習会 3・4年生児童（10名） 地域住民6名 文化祭 全校児童（31名） 来客約100名
経費の総額・内訳概要	なし



成果と課題

【成果】

・“総合的な学習の時間の学習では、調べたことだけでなく、「根知の自然（ジオパーク）」と「災害」、「地域の人々」の3つについても考えることができた。”の問いに対し、とてもそう思う80%・どちらかというと思う20%であり、昨年度の評価「とてもそう思う57%、どちらかというと思う43%」を大きく上回ることができた。

・地域住民へも学習会のちらしを作成し案内したことにより、少人数ではあったが参加される方がおり、地域の防災意識を高めることにつながった。

【課題】

・高学年の理科で学ぶ「流れる水のはたらき」と重複する内容もあることから、「根知川についての学習会」では高学年も参加したが、今後どの学年で扱うべきかカリキュラムの調整が必要である。



成果物

なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 9 】※3

タイトル	防災教育カリキュラム（試案版）の作成
実施月日（曜日）	8月3日（金） 検討会
実施場所	根知小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーグリーン（小池 聡） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（研究主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×120分
プログラムのカテゴリ、形式※4	12 研究
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・教材づくり
達成目標	防災教育の視点から防災と関係づけて学ぶと効果的な教科や道德等の内容を精査し、学年の発達段階を考慮した6年間の防災教育カリキュラムを作成する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①4月、「防災教育カリキュラムの概要もと」を検討 ②小・中・高学年の各担当が、「防災教育カリキュラムの概要もと」に基づき、各学年における「防災教育カリキュラム B年度（案）」を作成 ③8月3日、各学年の「防災教育カリキュラム B年度（案）」を全体で検討し、以後「防災教育カリキュラム B年度（試行版）」として実践をしながら加除訂正
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	各教科の教科書、年間指導計画 等
参加人数	教員（6名）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・各教科、道德、学級指導、行事等で、どんな内容をどの時期に防災教育として児童に学ばせるかが明確になりつつある。 【課題】 ・県教育委員会では、今年度、県の防災教育プログラム（主に総合的な学習の時間を用いて、各学年10時間の学習内容）を作成し、2014年から県下一斉にプログラムに基づいた防災教育を推進しようとしている。当校が、既存の学習内容を活かし無理なく防災教育を推進しようとしている方向性と異なっている。
成果物	防災研修資料

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 10 】※3

タイトル	授業参観サプライズ避難訓練
実施月日（曜日）	9月6日（木）
実施場所	根知小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック（宮川高広） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（教頭）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1×10分
プログラムの カテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	授業参観中の突然の避難訓練において、児童だけでなく参観している保護者も適切な避難行動ができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	※5限の授業参観時 授業終了5分前 ①担当者「これより地震を想定した避難訓練を行います。保護者のみなさんにも参加してもらいます。このあと、ものがガタガタと揺れたり倒れたりする音が放送で流れます。その音が流れている間は、立っているのが困難なほど強くゆれている時間となります。命を守るためにどうしたらよいか自分で考え行動しましょう。 ②担当者【音響】 ③担当者「ゆれがおさまったようです。担任は児童・保護者の安全を確認しなさい。確認できた学級から玄関前広場へ避難しなさい。」 ④児童・保護者・教職員は避難行動を開始～避難完了 ⑤担当者「避難訓練！早朝からの豪雨とただ今の地震の影響により、地域のいたるところで地すべり、がけ崩れが発生！学校体育館が避難所に指定されました。児童、保護者は体育館へ避難しなさい！」 ⑥児童・保護者・教職員は避難行動を開始～避難完了
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	地震発生時の音響CD ハンドマイク
参加人数	全校児童（31名） 保護者14名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 - 参加された保護者も自分の判断で姿勢を低くしながら両手で頭部を保護する行動ができていた。また、避難の際に児童の手を取りながら誘導していただいた。 - 参加した保護者から「いつどこで何が起きるか分からない日々なので、身体でどう行動したらよいか経験するのは大切なことなのでありがたい活動です。」など、良い評価を得ることができた。



	【課題】 ・参加した保護者から「高学年は体が大きくなって机の下に入りきらず、頭だけ机から出ている子どもが何人か見受けられた。何かいい対策・指導をお願いします。」の意見をいただき、客観的な評価により課題が明確になった。 
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 11 】※3

タイトル	防災・宿泊体験学習（第2回地域防災懇談会）
実施月日（曜日）	9月6日（木）～7日（金）
実施場所	根知小学校・地域（下根知地区）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーホワイト（谷ロー之）他全メンバー 所属・役職等：チャレンジャー事務局（校長以下全教職員）
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×1, 380分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ 9 校外学習・移動教室 16 避難・防災訓練
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	さまざまな MISSION を解決する活動を通して、もしも災害が起きた時に役に立つ体験ができたと感じることができる。
実践方法・進め方 （箇条書きまたはフロー）	○授業参観サプライズ避難訓練で学校体育館が避難所になったと想定 ①MISSION 1：災害図上訓練（DIG） ※講師：チャレンジャーグレー（防災士） ・DIGとは ・タウンウォッチング（自宅・避難所・公園・消火栓等防災資源の位置確認） ・土砂災害被害の映像を視聴 ・浸水予想域の書き込み ・予想される物的・人的な危険とその対策を検討（グループ協議） ・地滑り予想域の書き込み ・予想される物的・人的な危険とその対策を検討（グループ協議） ・ハザードマップでの危険区域・避難対象区域の確認 ・釜石の軌跡の映像（想定を信じるなの教訓）を視聴 ②避難所研修（過去の災害に学ぶ） ※講師：チャレンジャーブラック（防災士） ・阪神淡路大震災と東日本大震災について ・自宅の耐震補強と家具転倒防止の必要性について ・消火器の使い方について ・避難所がないものとあるもの（命・知恵・情け）について ・今回の想定の確認 「縦割り班が仮想の地域住民」「保護者は老人役、M先生は日本語が話せない外国人」「電気（非常用発電機は9時まで）、水道が使えない」「食料は…」など ③MISSION 2：避難所ルールをつくれ！学校職員は非常用発電機を準備せよ！ ・避難者の確認（避難者名簿の作成） ・避難所の総括リーダー、地域のリーダーの選出 ・生活時間、居住スペース等のルールづくり ④MISSION 3：避難所生活を準備せよ！ ・トイレ用水の確保 ・非常食の配分と準備 ・毛布の配分



	・居住スペースの確保とパーティションの設営 ・情報掲示板の作成 ※教職員は非常用発電機と投光器の準備 ⑤MISSION 4 : スタンツで避難所生活を明るくせよ！ ⑥MISSION 5 : 電気の無い夜をすごせ！ ⑦MISSION 6 : 避難所生活を振り返れ！ ⑧MISSION 7 : 安否札を各家庭に配布しながら地域の防災資源を確認せよ！ ⑨MISSION 8 : 飲める水をさがせ！ ・簡易水質検査の使用法について ・地図に記された湧水を搜索、水質調査 ⑩MISSION 9 : 火事だ！消火器で火を消せ！ ・「火事だ！」と叫び、校舎 1 階にある消火器（事前に水消火器と入れ替えておく）を取りに行き、前日に講習を受けた使い方を思い出して消火活動 ※本当に断水になったため水消火器を準備できず、急きょ参加した保護者（消防団員）の指導のもと、消火栓を利用した消火訓練に変更（4 班中 2 班） ⑪MISSION 10 : 水害だ！土のうを積み上げろ！ ・「水害だ！」の合図で、校舎内からスコップなどの必要な道具を探し出し、土のう袋（12 袋）に砂をつめ、50m 離れたところに 3 段で積み上げる ⑫特別 MISSION : ヤマメをつかまえろ！ ・チェックポイントで、各班ヤマメを 4 匹捕獲 ・塩焼きにされたヤマメを食す ⑬保護者炊き出し訓練 ・校舎内から使用できる皿を探し出す ・ご飯は鍋で炊く ・一皿で盛りつけられるカレーライスを作る ⑭保護者への児童引き渡し訓練 ・事前登録された保護者または代理者であるかを確認しての引き渡し
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災士（学校職員 2 名）・消防本部職員・消防団員（参加保護者） DIG 用品各種（市から借用） プロジェクタ・スクリーン・放送機器・ホワイトボード 非常用発電機・投光器 パーティション（市から借用）・プラスチック段ボール（購入） 養生テープ等（購入） アルファ米（購入）・乾パン（市から贈与）・水（市から贈与） 毛布（市から借用） 簡易水質検査キット 安否札（自作） ヤマメ（地域の内水面漁協から贈与）・コンロ（保護者持ち出し） カレーの食材・鍋 など
参加人数	全校児童（31 名） 保護者（14 名） 地域住民等（4 名） 学校職員（10 名）
経費の総額・内訳概要	25,955 円 アルファ米 11,715 円 プラスチック段ボール 14,240 円（別途）



成果と課題

【成果】

・“防災・宿泊体験学習のミッションでは、「もしも災害が起きたとき」に役に立つ体験ができたと思う。”の問いに対しては以下の通りであり、目標とした成果を得ることができた。

災害図上訓練：とてもそう思う91%・どちらかというと思う9%

避難所生活：とてもそう思う100%

安否札配布：とてもそう思う95%・どちらかというと思う5%

消火訓練：とてもそう思う100%・どちらかというと思う0%

水防訓練：とてもそう思う96%・どちらかというと思う4%

飲み水調査：とてもそう思う70%・どちらかというと思う30%

・参加した保護者から「1年生から大人まで一緒に学習できたことはよかったと思います。勉強になりました。」「(炊き出し担当)カレーはすぐにできてよかった。本当に水がでなかったのも、勉強になりました。」「リアル断水、水が使えずサバイバル気分でした。水の大切さ、洗い物を出さない工夫…少し考えた気がします。衛生面もありますが、子どもたちにはそんな知恵をつけてもらいたいと思います。来年もぜひ!」「9月6日～7日防災宿泊体験学習は、子供たちにとってとても良い経験だったと思います。図上訓練ではどこに何があるか(飲める水・消火栓など)大人も普段車で通るだけで見逃していることが多いので、今から意識して暮らすことがとても大切だと思いました(子どもの方が分かっていました)。避難所生活でも、みんなで協力することの大切さを実感できたと思います。」「来年は2泊3日に!」と好評をいただくなど、災害対応能力の育成の一助になったと思われる。

【課題】

・立ち上がり目の自主防災組織のメンバーや一般地域住民の研修の場となるよう企画し、案内を出した。しかし、参加者が少なくねらいの一つ(地域住民にとっての研修機会とする)を十分に達成できたとは言えない。今後、PRの仕方・実施時期等について検討する必要がある。



成果物

研修資料内写真

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 12 】※3

タイトル	人と共に生きる 地域の人々とつながり隊～地域とつながる～ 授業協議会②（５・６年生総合的な学習の時間）
実施月日（曜日）	９月２６日（水）授業協議会 １０月２８日（日）成果発表
実施場所	根知小学校 他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーレッド（宮下 克子） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（５・６年生担任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	70×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	・児童アンケートにおける肯定的な評価（とてもそう思う・どちらかというと思う）が100%になる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①前年度２月に単元計画案を検討 ②４月、校内研究の全体計画と「防災教育カリキュラムの概要もと」に基づき、単元計画案を修正 ③総合的な学習の時間における児童の探究学習開始 ・交流の方法を検討 ・赤ちゃん触れ合い教室 ・地域のお年寄りへ過去の災害や地域への思いについての聞き取り調査 ④８月２８日、授業公開に向けた指導案検討 ⑤安否札の検討と作成 ⑥安否札の配布活動（９月７日に配布しなかった地区） ⑦９月２６日、授業公開と授業協議会 ⑧安否札の配布活動（配布しなかった地区） ⑨１０月２８日、文化祭で発表 ⑩地域のお年寄りへの福祉活動 ・年賀状（絵手紙）の作成 ・春に贈るチューリップの鉢植えの準備作業 ・給食サービス（公民館事業）に添えるメッセージ書き
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	安否札作成用ラミネータフィルム・色画用紙（持ち出し） 絵手紙用画仙紙（持ち出し） チューリップ球根・鉢・用土等（持ち出し）
参加人数	総合的な学習の時間 ５・６年生児童（１３名） 文化祭 全校児童（３１名） 来客約１００名
経費の総額・内訳概要	別途会計



成果と課題

【成果】

・“総合的な学習の時間の学習では、調べたことだけでなく、「根知の自然（ジオパーク）」と「災害」、「地域の人々」の3つについても考えることができた。”の問いに対し、とてもそう思う67%・どちらかというと思う33%であり、昨年度の評価「とてもそう思う46%、どちらかというと思う36%、どちらかというと思わない18%」を大きく上回ることができた。

・安否札を手渡しする活動は、特に地域のお年寄りに喜ばれた。また、一部の地域で初めて防災訓練が行われ、配布した安否札が活用されたのは大きな成果であり、児童の自己肯定感を高める上でも効果があった。

【課題】

・計画外の安否札の作成は、手作りを心がけたものの経費が予想以上に上がり、学校の経費負担が大きくなった。



成果物

(安否札写真)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。


【実践プログラム番号： 1 3 】 ※3

タイトル	流れる水のはたらき
実施月日（曜日）	1 0 月 2 2 日（月）
実施場所	根知川・姫川流域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブラック（宮川高広） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（理科主任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1 × 1 0 0 分
プログラムの カテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	地元の川の上流から下流までを観察しながら、流れる水の働きや砂防設備を直接確認し、土砂災害の発生と防御の仕組みを理解する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①根知川（姫川の支流）上流地点の川の流れや石の様子を観察及び砂防堰堤の役割の学習 ②根知川中流の川の流れや石の様子を観察及び床固工の役割の学習 ③姫川中流の川の流れや石の様子を観察及び侵食・堆積箇所の観察 ④姫川下流（河口付近）の川の流れや石の様子を観察及び護岸工の学習 ⑤水防倉庫内の設備の見学
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	国土交通省高田河川国道事務所糸魚川出張所所長：伊藤勝美 様 猪又建設株式会社土木工事長：近藤栄樹 様
参加人数	5：6年生児童（13名）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・理科の学習で学んだことを実際の川の観察を通して、流れる水の働きである浸食・運搬・堆積の様子について深く理解することができた。また、実際の砂防施設の観察と説明により、どんな場所にどんな工法が施されているか実感を伴う理解ができた。 【課題】 ・20Kmの流域を移動しながら観察を行った。タイトな日程になったので、時間及び見学箇所の精選を図る必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 14 】※3

タイトル	学校探検・あそびにしよう 授業協議会③（1・2年生生活科）
実施月日（曜日）	11月27日（火）授業協議会③（研究会）
実施場所	根知小学校 他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーブルー（松田 敬） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（1・2年生担任）
所要時間または 「コマ数×単位時間」	70×45分
プログラムの カテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	2 講習会・学習会・ワークショップ 6 防災に関する知識を深める
達成目標	・公共の施設は安全を考えてつくられているが、利用の仕方によっては危険が生じることが分かる。 ・研究会を通して、今後の防災教育の在り方を考える。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①前年度2月に単元計画案を検討 ②4月、校内研究の全体計画と「防災教育カリキュラムの概要もと」に基づき、単元計画案を修正 ③生活科における児童の探究学習 ・学校探検（危険箇所、非常口、消火器、消火栓などの確認）と学校探検地図の作成 ・下根知農村公園、白池の森公園の探検（自然に触れ合い、遊びを通して公園の施設設備や役割の調査） ④10月28日、文化祭で発表 ⑤白池の森公園の防災設備の調査、管理員へのインタビュー ⑥10月15日、11月19日授業公開に向けた指導案検討 ⑦11月27日、授業公開（へき地複式研究会）・協議会 ・授業公開 ・当校の防災教育について ・当校の校内研修について ・授業反省と質疑 ・協議「各校における防災教育の取組と課題」 ・指導・助言 上越教育大学教授 藤岡達也様 ⑧昔の遊びを通じた地域のお年寄りとの交流
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	上越教育大学教授 藤岡達也様 白池の森公園管理員 地域のお年寄り
参加人数	生活科 1・2年生児童（8名） 文化祭 全校児童（31名） 来客約100名 研究会 指導者（1名） 参観者（4名） 当校職員（7名）
経費の総額・内訳概要	別途会計



成果と課題

【成果】

- ・児童は、学校と公園の施設の比較を通して、公共の施設が使いやすさや安全を考えて作られていることに気づいた。また、安全な場所でも、使い方によっては危ない場所になるなどルールやマナーを守ることが大事であることも気づくことができた。
- ・環境教育や防災教育を研究されている上越教育大学教授藤岡達也氏を指導者に招き、当校の取組や教科に防災教育を取り入れる際のポイントを研修することができた。

【課題】

- ・児童の発達段階を考慮し、防災にかかわるレジネスの何を・いつ・どうやって指導していくか再検討していく必要がある。



成果物

なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 15 】※3

タイトル	第3回地域防災懇談会（根知地区公民館大会）
実施月日（曜日）	12月2日（日）
実施場所	根知地区公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：チャレンジャーホワイト（谷ロー之） 所属・役職等：チャレンジャー事務局（校長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×240分
プログラムのカテゴリ、形式※4	3 講演会・シンポジウム
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	みんなで工夫・協力し、伝統文化と地域を守ろうとする意識が高まる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	※校長は公民館運営委員のメンバーであり、公民館大会を地域防災懇談会と位置づけ実施（参加） ○公民館大会テーマ：防災と伝統行事 ①炊き出し体験 ②炊き出しの試食と防災（東日本大震災の記録）映像の視聴 ③避難訓練 ④AEDの講習 ⑤講演1：七夕～松本の現状と根知の特色～ 松本市立博物館学芸員 ※根知地区及び松本市の七夕飾りは、人形を吊るすという共通点（特色）があり伝統行事として伝承されている。昨年3・4年生が総合的な学習の時間で、この七夕を調査し、防災宿泊体験学習の折に、老人会の方から指導を受け七夕飾りを作成した経緯がある。 ⑥講演2：里山砂防について アジア航測（松本砂防事務所委託） ※里山については、来年度以降総合的な学習の時間で、学習の対象として取り組む予定である。 ⑦防災教育チャレンジプランの取組と地域への提言 根知小学校教頭 ⑧懇談会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	プロジェクタ・スクリーン・パソコン
参加人数	地域住民（約40名） 学校職員（3名）
経費の総額・内訳概要	別途会計



成果と課題

【成果】

・昨年に引き続き、公民館側から防災をテーマとした公民館大会の企画の申し入れがあり、当校職員も一緒に参画し、地域防災懇談会として開催した。「日頃意識していなかったもの・ことを地域の宝として守り、継承することの重要性を再認識した。」という声を参加者から聞くことができた。また、この会を通して、懸案事項であった自主防災組織が近々立ち上がることを確認することができた。

【課題】

・中・長期計画に基づいた計画的、戦略的な地域防災懇談会を実施していくことが求められる。



成果物

なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案と調整で 苦勞した点 工夫した点	当校は、2011 年度から継続して防災教育チャレンジプランを実践している。2011 年度の実践では、防災教育特別賞を受賞した。しかし、教職員からは「受賞しても実感が持てない。自分はほとんど何もしていない気が・・・」という声があがった。この年、学級減に伴い教職員数が削減されたため、防災教育チャレンジプランを推進していく上で、教職員の負担をできるだけ軽減しようと配慮したことが、防災教育における教職員の効力感、達成感を低下させていた。そこで、2012 年度は、全教職員（11 名）一人一人に、それぞれ地震や風水害などの 11 種の災害等に立ち向かう防災戦隊チャレンジャーの使命を与えた。また、校内研究を防災教育と社会福祉教育に特化し、一人一研究・実践（一つ以上）で取り組むようにし、防災戦隊チャレンジャー（防災教育チャレンジプランの実践メンバー）としての自覚をもたせながら、それぞれの校務分掌においてできることを無理なく実践するようにした。 一方、主要プランとしていた自主防災組織と合同で行う防災訓練の実施時期がなかなか決まらなかった。昨年度実施した防災・宿泊体験学習を今年度結成予定の自主防災組織と合同で行う防災訓練として、7 月中に実施することを計画していた。しかし、自主防災組織の結成の見通しがつかめなかったため、結成を促す地域防災懇談会を 5 月に開催し、さらに防災・宿泊体験学習を 9 月実施に予定変更し、ねらいを地域防災や避難所運営を研修することに変更しながら実践を進めた。
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	防災 MISSION の問題を作成する上で、防災に関する知識を教職員（担当者）が高める必要があった。そこで、4 月に担当者（教頭）が防災危機管理者養成講座を受講（テキスト学習）し、その知識を防災 MISSION に活かした。また、そのテキストで学んだDIG（災害図上訓練）と発災対応型防災訓練を 9 月の防災・宿泊体験学習に取り入れようと考えた。防災士である管理員に、DIGの準備と当日の指導を依頼し、全校体制（全職員）で取り組む体制を作った。さらに、防災・宿泊体験学習では、地域住民及びこれから結成される自主防災組織のリーダーが避難所運営の know-how を学ぶことができるよう、7 月に担当者（教頭）が防災士養成研修講習を受講し、その知識・技能を身につけた。そして、二人の防災士（教頭・管理員）が、DIGの運営方法について検討し準備を進めた。 防災・宿泊体験学習の準備にあたっては、実施計画案の検討会で出された意見をできるだけ取り入れた。また、担当する MISSION の決定は、教職員の自発性を重視した自己選択制とし、選んだ MISSION の実施に向けて準備にあたった。
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	防災教育に取り組む児童にとって、また教職員にとってもその取組が楽しく感じる工夫を念頭において実践した。 ①教職員全員を防災戦隊チャレンジャーとして防災教育にかかわらせたこと ②防災戦隊チャレンジャーのキャラクターイラストを作成したこと ③キャラクターを防災 MISSION やチャレンジャー通信、チャレンジャーカード等に積極的活用し、児童や他校に関心をもたせたこと ④GCB48のセンターを目指せ！など、流行を取り入れたこと ⑤一人一研究・実践（一つ以上）で自分がやれることやりたいことに取り組んだこと 一方、プランの検討会で出た意見を生かすことを大事に進めていたが、検討会で出される意見はストイックなものが多く、実践するのに躊躇するものも少なかった。 また、防災・宿泊体験学習では、どの教職員とも、まったく経験のない取組がほとんどだったが、災害発生時に求められる災害対応能力の育成を考え、細かな行動マニュアルは敢えて示さなかった。



5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①糸魚川市教育委員会 ②上越教育大学 ③市内小学校 ・糸魚川市立南能生小学校 ・糸魚川市立浦本小学校 ・糸魚川市立上早川小学校 ・糸魚川市立下早川小学校	①地域防災懇談会での 助言・市内他校への普及 (市教研防災研修) ②研究協議会での指導 ③研究協議会での助言
保護者・ PTAの組織	○糸魚川市立根知小学校保護者	○防災 MISSION への協 力、防災・宿泊体験学習 への参加・協力
地域組織	①根知振興協議会 ②小滝地区自治振興協議会	①②地域防災懇談会での 助言
国・地方公共団体・ 公共施設	①糸魚川市消防本部 ②糸魚川市商工農林水産課 ③国土交通省高田河川国道事務所糸魚川 出張所 ④国土交通省北陸地方整備局松本砂防事 務所 ⑤フォッサマグナミュージアム ⑥根知地区公民館 ⑦根小屋駐在所 ⑧根知郵便局 ⑨松本市立博物館 ⑩河合町総務部安心安全推進課（奈良県）	①②防災・宿泊体験での 物資支援 ③④⑤学習会の講師 ⑥⑦⑧⑨地域防災懇談 会活動支援 ⑩情報提供及び助言
企業・ 産業関連の組合等	①猪又建設株式会社 ②糸魚川内水面漁協	①学習会の講師 ②防災・宿泊体験での物 資支援
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

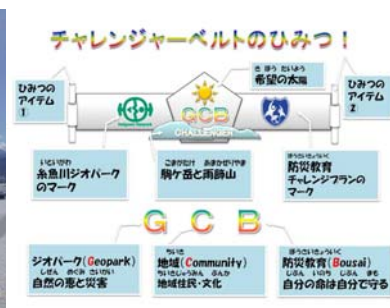
成果として 得たこと	・今年度の1番の成果は、形に残すことができたことである。具体的には、防災教育カリキュラムの概要と各学年の偶数年度（B年度）試行版、防災MISSION計画とチャレンジャーカード、DMカードである。形に残すことで、次年度以降の活用や応用が容易になり、継続性が期待できる。 ・2011年から保護者や地域を積極的に巻き込んだ防災教育を継続したことで、「小学校がこれだけ一生懸命に防災教育に取り組んでいるのだから」と保護者、地域から協力を惜しまない声を聞くことが多くなったことである。市教育委員会においては、根知小学校の取組を市内に広げようと、市教研で防災研修を設定したり、防災教育推進校を指定する働きかけが行われたりするようになり、防災教育チャレンジプランの後継学校が決定するに至った。 ・2年間継続して取り組んだことで、当校の防災教育の内容が格段に進化したことである。「継続は・・・」である。 ・学校評価保護者アンケートより 「とても良い学習だと思います。起きてほしくないことですが、いざという時は子供たちを中心に学習していることが役に立つと思います。」「代替えでの生活方法（ペットボトルでご飯を炊く）や火の焚き方など、非日常的な時の知恵を身につけてほしい。大人になったとき、一つは記憶に残っていると思う。毎年、防災教育の後、一回り成長しているように感じます。ありがとうございました。」「災害は起きてほしくはないですが、備えることは大切だと感じています。地域と一体となって学習していて、子どもも自分のこととして学んでいるのではないかと思います。」「子どもの地域理解を深めるのにとってもいいと思います。」「地域に起こりうる災害を学ぶことで、より地域理解が深まっていると感じます。親が知らないことも教わってきて感心しています。」「子どもから大人まで地区全体で取り組めればと思います。」「防災宿泊体験、安否確認札の配布など、防災教育は非常によかったと思います。…中略…安否札は糸魚川市全体の取組になるといいなと感じています。」
全体の反省・ 感想・課題	・一人一研究・実践（一つ以上）をノルマとし、自分の校務分掌でできることややりたいことに各自が取り組んだことで、今年度は効力感や達成感を得ることができたと感じている。 ・市を代表して防災教育に取り組み、当校の防災教育の充実だけでなく市内の学校への普及を目的として2年目も取り組んだ。11月に開催した研究協議会において、当校の防災教育の取組を聞いた参加者から「一定の成果があったと聞いて安心しました。これだけやって成果がなかったら大変なこと…学校はいろいろやるのが多く忙しい、これに加えて防災教育をやるのは無理！…安全教育をしっかりとやっていれば、防災教育は必要ない！」という発言があり、これまでやってきたことに対して、周囲から受け入れられない独りよがりな内容だったのかとも考えた。学校は実態をつかみきれない多忙感が漂い、新しい取組を拒絶する傾向がある。閉鎖的・排他的な場であることを念頭において、戦略的に防災教育の普及を図る必要性がある。とはいえ、防災教育チャレンジプランの後継学校も決定し、防災教育が糸魚川市に一步広がったことは、一番の成果である。
今後の 継続予定	当校は今年度から2年間、新潟県防災教育プログラム開発のモデル校（土砂災害部会）として、学習指導案等の作成に携わっている。来年度は、土砂災害編の指導案試行版の実践とその改善点を具申していく使命を負っている。 また、未制作の防災教育カリキュラム（奇数年度版）を作成しながら、県の防災教育プログラムとの整合性を図っていく必要性もある。 さらに、今年度作成した防災MISSION計画に基づき、一人でも多くの児童がG C B 4 8のメンバーになれるよう防災MISSIONを継続する。



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

防災戦隊チャレンジャー物語 2012



プラン2：防災MISSION
DMカード

チャレンジャーカード&

GCB48のメンバーになろう！ GCB48のセンターをめざせ！

チャレンジからだされる防災クイズやミッションをクリアして、チャレンジャーカードをあつめよう！

- ☆6まいで、GCB48のみならずのみなさん！
- ☆12まいで、GCB48のみならず！
- ☆24まいで、GCB48のジュニアメンバー
- ☆48まいで、GCB48のレギュラーメンバー

※にんていステッカーがもらえるよ！

毎日金曜日にクイズをだします！家族で相談して答えましょう！

48まいあつめると！対戦型のカードゲームになる？

あつめたあとも、家族で楽しもう！

※まいしゅうレギュラーメンバーは48人まで！中学校へ入学したら、そつぷしょうします

※2月までに、いちばんあつめあつめた人がセンターに！



プラン4：第1回地域防災懇談会
ブラック！

プラン7：運動会サプライズ避難訓練

チャレンジャー



(自由記述: 1/3)



プラン10・11：授業参観サプライズ避難訓練&防災・宿泊体験学習（1日目）

★防災・宿泊体験学習の企画
(学校と保護者・地域住民との防災研修の場)



(自由記述: 2/3)



プラン 11 : 防災・宿泊体験学習 (2日目)

**緊急事態発生！
本当に断水に！**

**ウオークラリー！
MISSION 7 目 的 点**

チェックポイント
Aコース 検知駅
Bコース
まだ断水中！
出発予定は9:00！

スタート・ゴール
MISSION 9
MISSION 10

**安否札を配りながら、
地域の防災資源を確認せよ！**

MISSION 7

飲める湧き水をさがせ！

MISSION 8

**火事だ！
消火器で火を消せ！**

MISSION 9

**水害だ！
土のうを積み上げる！**

MISSION X

土のう12袋を...

MISSION +α

ヤマメをつかまえる！

班で4匹つかまえる！

炊き出し訓練(保護者)

水が出ない！

児童・保護者引き渡し訓練！

**根知っ子防災！
X MISSIONS**

2012. 9. 6～9. 7

次のチャレンジャーはあなた！

(自由記述: 3/3)